

保護者の皆様へ

1月「なんでもおしゃべり会」のお知らせ

12月は、この通信休刊に伴い「おしゃべり会」もお休みさせていただきましたが、11月は片桐事業部長を囲み、制度の話や年金の話などたくさんの情報交換がされました。次回は、ご希望の声があり現場支援員も参加の予定。ららん、にこ、短期入所の職員が待機しますので、ぜひご参加ください。

日時: 1月13日(水) 午前 10:00~12:00
場所: にとるの家はなれ 市民交流スペース

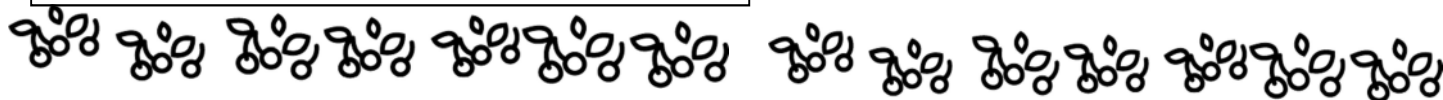


年末年始に関するお知らせ



年末年始は、皆様お忙しいことと思います。当事業部でも、下記の通り年末年始の営業日をお知らせいたします。

【にこ 12月29日~1月3日まで休み】
【ららん、ぴっと 1月1日~1月3日まで休み】
【きら、らく、総務 12月30日~1月3日まで休み】
【短期入所 年末年始全日営業】
※緊急時は別途対応致しますのでご相談ください。



リレーエッセイ

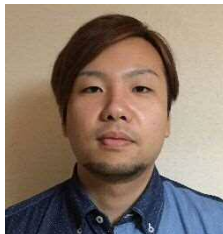
毎月お楽しみ『リレーエッセイ』！
普段は見えない職員の「新たな一面」がのぞける社外社内ともに人気のコーナー♪
今回は、「へるぶ屋ぴっと」のヘルパー水澤と、松野です。

私の趣味についてお話ししたいと思います。私の趣味は読書と本収集です。読書と言っても漫画なのですが..。本収集ももちろん漫画です!! 休日は漫画喫茶に行き、一日中本を読んでいることが多いです。私にとってはとても居心地が良い空間であり静かに自分の好きな本を好きなだけ読めるので、本当はずっと泊り込みで居座りたいくらいです。行かれたことのない方はぜひ行ってみてください!!

本収集は中学生の頃から始め、今では1000冊くらいになりました。本の種類は皆さんが知っているワンピース、ドラゴンボールなど少年ジャンプで連載しているものをはじめ、他にも格闘系・ヤンキー系・グロ系など様々なものを集めています。もしこれ面白いよ!! という本がありましたら教えてください、すごく喜びます!

これからも本の収集を続けていきたいと思っておりますので、面白い本の情報をお待ちしております!!

水澤 翔平



読書の秋、食欲の秋、芸術の秋、
スポーツの秋...この時期の休日は大忙し。
スポーツとは無縁のような風貌の私ですが、実は、弓道を習っています。
といっても見た目ではあまり動かないの



でスポーツっぽくありませんね。大学時代から始めて、通算5年目になったところです。

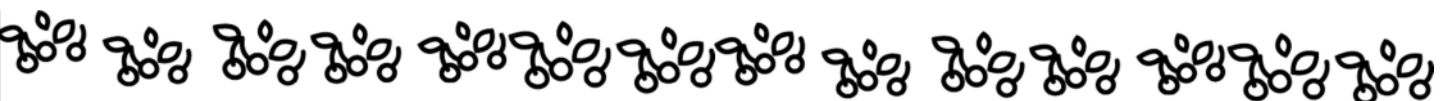
弓具の話のひとつ。「蹠(かけ)」は弓を引くとき右手指を守るためにつける革製の手袋のことで、使っていく中で自らの手に合う形になっていきます。

大切にしていれば一生履もち、変えることのできない大切なもの、という意味から「かけがえのないもの」の語源になったとされています。(一説です)

そして私もついに、この秋に自分の蹠を買いました! これから次第に手になじんで世界にひとつだけの、かけがえのないものになっていくことがとても楽しみです。

松野 春菜

来月は「放課後等デイららん」指導員の矢澤と「生活介事業所きら」支援員の笹川(義)です。お楽しみに!!



発行者：社会福祉法人みんなでいきる 障害福祉事業部りとるらら通信
通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170 (担当：久保)

いとるらら通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらら
発行日：2015年12月

朝の冷え込みが日に日に強くなってきて、いよいよ冬の到来を感じます。この時期毎年頭を悩ませるのが駐車場問題(笑)です。降雪量の多い上越では、除雪費用がかさむのはもちろんですが、利用者の皆様に御迷惑がかからないよう、いかに駐車スペースを確保するのかがとても重要です。職員も増え、「今年はなれの駐車場は大丈夫か?!」と今から職員の駐車方法に四苦八苦している事業部です。



成人式を行いました☆



先日11月21日(土)に、生活介護事業所きらりの年間行事として「成人式」を行いました。この成人式は、昨年度から始めた取り組みです。年齢期を中心にサービスを提供してきた当事業部が、生活介護事業を始めて早数年...。事業開始時には、まずは事業を安定的に実施することに精一杯で、季節行事はあるものの、こうした「ご利用者様の門出を祝うイベント」の実施まではできておりませんでした。ですが、昨年度、ご利用者の方の中には上越市主催の成人式に出席できなかった方がたくさんいることや、記念写真の撮影ができなかった方もいらっしゃることを聞き、「ぜひ当事業部での成人式を実施しよう」と取り組みを始めたのです。

今年の成人式対象参加者の方は2名。当日は式典会場として、当事業部と同じ大島グループの「サンクス高田」様をお借りし、ロビースペースを華やかに装飾しました。

11時からの式典では、成人された2名の方に当事業部の片桐事業部長より「成人証書」を渡し、成人代表の1名からは成人の言葉を述べていただきました。



来賓には、当法人大島誠理事長をはじめとする3名の方にご出席いただき、お祝いの言葉をいただくとともに、成人式対象ご利用者の保護者からも挨拶の言葉が述べられました。その後、サンクス高田の職員様よりお祝いのハンドベル演奏も☆ 式典終了後は、参加者全員で昼食会を行い、そこではきらチーム作成の「ご利用者思い出ビデオ」を流し、穏やかで心地よい時間を過ごすことができました。

昨年度から始めたこの成人式ですが、やはり実際に行ってみると、支援者である自分たちもとても幸せな気持ちにさせてもらえます。そして、普段はなかなか見ることのできない「ご家族がこれまでご本人を育ててこられた気持ち」をほんの少しですが垣間見ることができ、「その気持ちを受け止めて今後も毎日をともに過ごさせてもらわなくてはいけないのだ」と、改めて支援者の気持ちを確認させてもらう機会にもなっております。

本当に心ばかりの小さな席ではありますが、それでもご利用者の皆様の「人生の門出」をお祝いさせていただけることがとても嬉しく思います。来年度も、右の写真のように、成人される皆様と保護者の皆様の笑顔を楽しみに準備に励みたいと思います。成人された皆様、おめでとうございます!





【ご案内】冬季の視察・ボランティア受け入れ

いよいよ冬本番になってまいりました。この季節は、皆様ご存知の通り、感染症の流行時期でもあります。

これまで、当事業部では、アルバイトを含む全職員のインフルエンザワクチンの予防接種を行ったり、加湿器や空気清浄器を設置し、毎日のサービス終了後にはアルコール等での消毒清掃を行ったりして、当事業部側での予防徹底を行ってまいりました。同時に、ご利用者の皆様にも来所時にはうがい手洗い消毒の励行を行っていただくとともに、検温等のバイタルチェックを実施させていただき、感染症濃厚接触の可能性の場合には別室対応も取らせていただくなど、できる限りの感染症予防に努めてまいりました。

流行時期には、どう防いでも感染してしまう場合はもちろんありますが、ご利用者の皆様の中にはこういった感染症の罹患から体調不良が長期化される方もおりますし、ご家族の就労状況上なかなかサービスを休めない方もいらっしゃいます。

そこで、更なる対策として、感染症の事業所内発生を未然に予防するため、保菌の可能性のある方の出入りを制限する観点より、**冬季期間中の視察及びボランティアの受け入れを停止することと致しました。**停止期間は以下の通りです。

停止期間終了後は、通常通り受け入れを再開させていただきます。また、採用希望により当事業部を見学されたい場合には別途対応致しますので、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ご利用者様の健康管理を第一と考えての措置となりますので、皆様ご理解の程よろしくお願い申し上げます。



受入停止期間:平成 28 年 3 月 31 日まで
お問い合わせ先:事務長小林(025-542-0170)



新入職員紹介

この度、10月21日付けにて、当事業部に更に2名の職員が仲間入りをしました。入職後約1か月半が経ち、少しずつりとるらひの雰囲気やカルチャーにも慣れ、ご利用者の皆様にも顔を覚えていただけるようになってまいりました。まだまだお会いしていない方も多くいらっしゃるとは思いますが、顔を見かけた際にはぜひお声掛けいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。



金子将志(かねこまさし)です。現在、きらに所属しております。趣味は掃除です。

平田聖(ひらたさと)り)です。現在、総務に所属しております。趣味は体を動かすことです。



休刊のお詫び

今年度4月より再発行を始め、毎月15日に発行しているこの「りとるらひ通信」ですが、先月(11月号)は都合により休刊致しました。

休刊に関するインフォメーションが足りず、誠に申し訳ありませんでした。

この機会に「今月号はないの?」「毎月楽しみにしているのだけど」「毎月ブログで見えています」などの声をいただき、このような通信でも見てくださっている方がいることに、とても嬉しくなりました。一時は電子媒体のみの発行にし、休刊となったこの通信ですが、再発行を決めてよかったと思っております。今後も更に充実した内容をお届けできるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



ヘルパー事業の休止と未来への展望

社会福祉法人みんなできの 副理事長 片桐公彦

「障害のヘルパー事業なんてやめておけ。絶対に食っていけないから」平成17年の冬、県外のとある研修会。講演を終えた講師の先生のお話が素晴らしくして名刺交換をした時に「今度、自分はヘルパー事業を始めるんです」と目を輝かせながら伝えた時にその講師の先生から投げかけられた言葉です。

先生「これから自立支援法という制度がはじまる。厳しい時代だ。君のような若い人が起業してもきつとうまくいかない。やめとけ」私「えーっと、もう、やるって決めちゃったし、指定申請もしちゃいました」

そんなやりとりをしたことを覚えています。その方はこれからはじまる障害福祉の荒波を予見して、私にそっと進言してくれたのだと思います。ですが私はそんな言葉が右から左にすっと抜けて行って、18年の秋にはさっさと行動援護と移動支援をはじめました。厳しい時期はありましたが事業は少しずつ軌道に乗りました。人手が足りなくなり、職員をどんどん雇用しました。送迎サービスがないと聞けば福祉有償運送事業をはじめ、担い手が足りないと聞けば研修を組みました。ボランティアの養成もガンガンしました。若かったのでしょうか。20代後半の自分にとってはまさに「寝食も忘れ」仕事をしました。毎日の帰宅時間は深夜2時3時という時期がずっと続きました。寝坊が怖くて昔の「ららん」の玄関で眠って、朝やってくる利用者さんのお母さんに「片桐さん、朝よ。今日もウチの子お願いね」と起こされたこともありました。そんな風にして私たちの20代後半から30代前半の時期は過ぎていきました。(別に長時間労働を自慢したわけでもノスタルジーに浸りたいわけでもありません。そういう時代があった、ということですよ)

出会った子どもたちの通所の行き先がないと聞き、2010年に生活介護をつくりました。短期入所がないと気づけば無理やり生活介護に短期入所をくっつけました。24時間365日の生活サポートが必要だと思い立ったので「あんしんコールセンター」という事業をはじめました。組織を安定的に運営する必要もあるということでNPO法人から社会福祉法人に法人格移行を果たしました。銀行からはじめてウン千万円の借金をしなければいけないけどなかなか貸してもらえず、第四銀行の当時の営業の小倉俊さんと昭町の「くいどころ里味」でなぜかコーヒーを頼んで、二人でじーっと見つめ合って、沈黙に耐えられなくなりそうになった時に、小倉さんが「ウチの銀行で貸します」と言ってくれたときの喜びは今も忘れることのできない感動的な思い出です。NPO法人で第四銀行として設備投資に資金貸付をした初事例だったと後から聞きました。

子どもの支援をもっと膨らませたいと思い、高田西小学校の放課後児童クラブの運営も手がけるようになりました。そうになったら放課後児童クラブの指導員の先生たちの相談に乗る存在が必要だし、学校の先生との橋渡しの役割が必要だということに気づいてしまって上越市に「上越市児童地域連携推進事業」という事業を創設してもらい、その委託事業をはじめました。この事業は現在、教育委員会の所管となり今も同様の事業が市直営で継続されています。

「ららん」の建物も老朽化して、そろそろ出なきゃいけないし短期入所ももっとしっかりしたものを作らなきゃ、そうそう職員研修や会議ができるスペースや災害時に受け入れのできる場所もいるねと思って、「りとるの家 はなれ」をつくりました。オルケアマネがいよいよ始まるぞ、ということで相談支援事業所も立ち上げました。

「社会福祉法人りとるらひ」をつくった頃から「これからは高齢障害の問題が顕在化する。ご家族にも介護サービスが必要な方々が出てくる。介護保険と障害福祉、両方のサービスを手がける法人にならなければダメだ」と思い始め、2014年には高齢福祉事業を手がける「社会福祉法人桃林福祉会」と合併をし「社会福祉法人みんなできの」として新たなスタートを切りました。その間に、特別養護老人ホームの建設に関わり、今年の6月には100名定員の特別養護老人ホーム「サンクスレリヒの森」がオープンしました。

私たちが生み出した「りとるらひ」では12年間で14のサービスを作り、現在は11の事業を行っています。高齢福祉事業までを含めると大小合わせて17の事業を実施しています。中間内数人ではじめて小さなボランティア団体は気がつけば職員260名の大所帯になりました。

12年間それなりに全力疾走してきたように思います。ここで一旦、これまで来た道を振り返ってみる必要があると思い始めました。これから先の5年10年はどうかと冷静になった時に、現場のシフトはどのように組まれているか?職員の人材育成はどうか?持続可能な仕組みはできているか?これから入ってくる若い人たちに対してキャリアアップの仕組みはできているか?これから先このペースで事業展開をしていく上でモチベーションや体力を残しながら日々の業務に向き合っているか?個々のサービスの質はどうか?どこかにリスクはないか?そして「私がいなくなった時でも、りとるらひはきちんと安定的に運営できていくか?」を考えました。

そうした自分たちなりの疑問を一つひとつ検証してみると、私たちはただひたすら手足を伸ばし、思い切り背伸びをしてきたように思います。細く脆い柱の微妙なバランスの中で成り立っていて、パキンと一本が折れてしまったらたちまちガラガラと崩れちゃう、抽象的な言い方ですが、そんな危うさを抱えているように思えるのです。そんなことがあってはいけないと思いますし、そうならないための努力を払わなければならないと考えてきました。何かを考え、取り組むためのエネルギーを生み出すための「余力」や「バッファ」が必要だと事業部を預かる私としては考えました。

そのための決断として、利用者の皆さんや関係者の皆さんにはすでに書面でご案内させていただいているところですが、平成28年2月末をもって居宅介護等事業所(ヘルパー事業所)・移動支援事業所である「へるらびびっと」を休止することといたしました。

ヘルパー事業における「行動援護」は旧「NPO法人りとるらひ」の時代に、県内に先駆けて実施してきた、という経緯があります。それだけに非常に辛い決断でした。ですが、これまでの道のりを振り返って、さらにこの先の見えない山道を登り切ろうとしたとき、先ほどから述べている組織的な余力や体力、モチベーションを高めるための工夫をするための時間と場所と人が必要なのです。

実際にサービスを利用されている方々には大変なご迷惑をおかけすることとなりますが、どうかご理解をいただき、私たちに少しの時間と場所と人を生み出すための余力を作ることをお許しいただきたいのです。

これまでサービスによってご支援させていただいていた部分については他事業所や相談支援事業所の方々に相談させていただき、出来る限りのサポートはさせていただきます。それでもなおかつ埋めることのできない状況や局面もあろうかと思いますが、私たちだけでなく上越地域の課題として一緒に考えられれば良いと願っています。

大変なお叱りの声も頂戴しておりますが真摯にこれを受け止め、その声にきちんと応えられるように努力をし、今の時点では時期は明言できませんが、いつかまた「へるらびびっと」が再開できるよう努力をしていくつもりです。

「ヘルパー事業なんてやめておけ」と言われてから、ちょうど10年が経ちました。あの時の声は今も心に残っています。私たちの支援の拠り所は「行動援護」や「移動支援」と共にありました。そのサービスの大切さを忘れたわけではありません。

忘れるわけがないのです。だって、俺たちのすべてが、そこにあったのだから。